

個と集団への効果的な支援を目指して

～小中連携を軸として～

越知町立越知小学校 教諭 問可邦子

本研究では、小中学校の児童生徒の学力の向上と不登校等の予防を目的として、Q-U を活用し、小中連携による個と集団への効果的な支援の在り方について取り組んだ。

個への取組として、主なものは、小学校では「のびっこ」という児童についての情報共有の時間、中学校では総括職員会を持ち、気になる児童生徒について情報共有し、組織として課題解決に当たるようにした。全体への取組としては、Q-U の分析結果をもとに各学級の状態に応じた、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等を活用した学級づくりを行った。

成果としては、学級生活満足群の増加、不登校児童生徒の減少、Q-U での学校生活意欲尺度の各項目の得点が高くなり、学力の伸びも見られた。また、教員の意識が変容し授業改善が進んだ。さらに、越知町教育委員会、小学校、中学校の連携も進んだ。